

東日本大震災追悼式



東日本大震災から2年を迎え

た3月11日、二本松市の総合葬祭ほうりんで浪江町東日本大震災追悼式が開催され、遺族や関係者ら約200名が参列しました。

町では、東日本大震災により184名が犠牲になり、その後の長期化する避難生活により250名以上の方々が亡くなられています。

式では、参列者全員で黙とうを捧げ、犠牲になられた方々の安らかな眠りを祈るとともに復興への誓いを新たにしました。



追悼の言葉

遺族代表 門馬沙也加

私たちのかけがえのない、尊い命を奪っていったあの東日本大震災から2年が経ちました。

地震の後のものすごい津波。たくさんの方が亡くなりました。

私のばあちゃんもその中の一人でした。

「ばあちゃん、あれからもう2年が経つんだよ。」

あの日、一緒に逃げたのに、ばあちゃんは、「家に戻るから先に逃げろ」と車から降りてしまいましたね。

そのあと、お父さんも一緒に逃げられたのに、近所の人たちがみんな残っていて、「この辺までは津波は来ないから、大丈夫だ」と言っていて、ばあちゃんも一緒に残ってしまいました。

2年前は先も見えず、ただ原葬から逃げるだけで、ばあちゃんが亡くなった現実を受け止められず、悲しむこともできませんでした。

日に日に「もう、ばあちゃんはいないんだ」と思うようになり、胸が苦しくなります。

元気で明るいばあちゃん。バイクで船の手伝いに行っていたね。家には、友だちが遊びに来ていて笑い声が聞こえていました。



小学校の運動会、私たち以上に張り切っていて、タオルを振り回して一緒に走って応援してくれていたね。ばあちゃんの応援、少し恥ずかしくもあり、うれしかったです。

そんな元気なばあちゃん。今も生きていたら、きっと100歳まで長生きしたと思います。

ばあちゃん、私は今、福島東稜高校でソフトボールを続けています。小学校からやっていたソフトボール。ばあちゃんは、応援に来てくれたり、部活にいくときには「頑張ってこい」と言ってくれましたね。

今は全国大会に出場できるように、毎日練習を頑張っています。活躍できるように頑張るから、天国で見えてください。

私たちは、これからもいろいろな問題や困難があると思います。でも、私たちは負けません。

亡くなった皆さんの分まで、一日一日を大切に一生懸命生きていきます。見守ってください。